

バグダッド日誌 (3月15日)

OBIAPI(バグダッド・インターナショナル・エア・ポート)

空幕の情報要求に基づき、BIAPの軍・民のターミナル警備状況を確認に行った。軍用ターミナルはコアリションの交代要員の送迎のためよく訪れる機会があるが、民間ターミナルは着任以来2回目であった。空港全体は、軍・民ともキャンプ・ビクトリーに隣接しており軍の敷地内にある。軍・民それぞれが滑走路をもっており、民間ターミナルは軍用の滑走路を挟んで軍用ターミナルの正面の位置にあり直線距離では1km、道路距離では滑走路を迂回する経路となるので約10km離れている。

当然の事ながら軍用ターミナルは軍の警備が、民間ターミナルはイラクの民間警備員が警備している。民間空港のセキュリティは前回訪問した時と比べものにならないほど厳しく、民間空港のゲート、ターミナル入り口、駐車場入り口の3ヶ所で厳重なチェックがなされた。我々のように戦闘服及び多国籍軍のIDを持っていれば、2～3分程度のチェックだが、民間人は車両点検等で10分以上かかっている。出発ロビーの警備状況を知りたかったのだが、搭乗券がないとDeparture Gateには、入れず Arrival Gateに行くしかなかった。到着ロビーに入る際もボディ・チェックを厳重にされ、更に空港立入専用のIDがないのでロビー内に入れないという。ねばり強く事情を説明して、ようやくロビーの中に入ることができた。

写真撮影禁止のサインがないことを確認し、警備の状況を撮影しようとした瞬間に、5人の空港警備員(全員イラク人)に囲まれてしまい、アラビア語で何やら怒鳴っている。こちらも別に悪いことをしているわけでもないのに「アーニー・ヤバーニー(俺は日本人だ!)」という、怒鳴っているトーンが落ちて、親しみのトーンへと変わり「ヤバーン(日本)、サマーワ、Good」の単語が断片的に聞き取れる。現在警備強化中で写真を撮らないで欲しいと言うことを言われ(たと思う。)なんとか解放された。

BIAPのセキュリティ・レベルはグリーン(安全)ではあったが、厳重な警備がなされていた。またロビー内で爆発音と振動を感じ反射的に身をかがめる瞬間もあったが、周りにいるイラク人や国連職員と思われる欧米人は何事もなかったようにしている。(バグダッド空港に対する攻撃情報にも載っていなかった。)

出発ロビーで5人の空港警備員に囲まれた時は多少驚いたが、ほんの少し「アラビア語が分かったこと」「日本人だったこと」で救われた気がした。サマーワの日本隊の活躍により何事もなかったと感謝している。

35



バスラLO日々業務報告(3月15日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [REDACTED] [REDACTED] (警戒態勢) : [REDACTED]
2 特記事項	(1) [REDACTED] (2) [REDACTED]
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : [REDACTED] (3) 定例会議への出席 : 司令部朝・夕会議、J2・J3・J9認識統一会議
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議、指揮官会議参加
5 その他(備考)	* R&R [REDACTED]

36